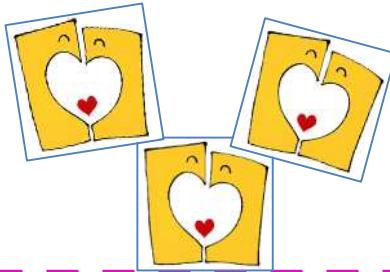


道徳通信

中島中学校 3学年道徳通信 No.3 R7.7.7



手品師 【主題名:誠実】

【あらすじ】

手品師は、大劇場のステージに立てる日を夢見て腕を磨いていた。ある日、道端にいた男の子に手品を見せて励まし、次の日も来ると約束する。その日の夜、大劇場に出られるチャンスがあるという電話を受ける。大劇場に出演するとなると、男の子との約束を破らなければならない。手品師は迷った末、男の子との約束を選び、素晴らしい手品を演じたのだった。



【ねらい】

男の子との約束を守った手品師の物語を通して、誠実とはどういうことかについて考え、自ら考え方の変化や成長を確かめ、自己肯定感を育てる。



生徒の振り返りより 「誠実について考えたこと」

誠実な人は自分の意見を取り入れて行動できる人のことだと思った。

必ずしも「正しい=誠実」ということではないことに気づいた。

自分に対して誠実でないという意見もあったが、自分の利益を顧みず一人の男の子との約束を守った手品師は眞のマジシャンだと思った。



迷ったときは自分の夢を実現することを優先することも大切。約束を果たせなかったことは、きちんと相手に訳を伝えることが「誠実」ではないかと思った。

ご家庭でも、「誠実」について話し合ってみてください。